2023年（令和5年）
12月16日
（土曜日）

THE KENSETSU MIRAI TSUSIN
建設未来通信

茨城全県版
発行所：茨城県水戸市笠原町1523-3
桂ビル2階
TEL:029-291-8855 FAX:029-291-8854
https://www.kensetsumirai.co.jp
新聞購読料　月額5,940円（税込）
電子版購読料　月額4,400円（税込）

ホコタ設計コンサルタンツ株式会社
テラドローン社製レーザースキャナ搭載UAV
本　社／鉾田市安房1571
つくば／つくば市稲荷原1-41
http://hokota.co.jp/

いばらきの公共事業
～歴史をたどり、後世に残す～
県土木部道路建設課編⑨

桜川土浦自転車道（つくばりんりんロード）の思い出

渡邊 一夫 氏 × 茅根 継雄 氏

元県土木部長
（当時・県土木部道路建設課）

元県企業局次長
（当時・県土木部道路建設課係長）

最近では乗りませんが、私は高校生の頃まで自転車をかなり利用しておりました。中学生の時は学校まで自転車通学をしましたし、高校生の時は最寄りの駅まで自転車を利用しておりました。小学校1～2年の頃だったと思いますが、自転車に乗りたくて猛練習したのをよく覚えております。転んでも転んでも、頑張りぬいたのです。子どもですから、大人の自転車のサドルに跨ると足がペダルに届きませんでした。やむを得ず、三角乗りを覚えたのです。曲がりなりにも乗れた時は本当に嬉しかった、懐かしい思い出です。

（弊社HPトピックスに掲載）

桜川土浦自転車道（つくばりんりんロード）は、桜川市の岩瀬駅前から筑波山麓を南下し、土浦駅東口付近に達する延長約40・1kmの自転車道です。国の大規模自転車道の制度により、補助事業の採択を受け、整備したのです。

通常の自転車道は、河川や湖の堤防などを利用して整備されるのですが、この路線はちょっと生い立ちが違います。かつては筑波鉄道が走っていたのですが、昭和62年（1987年）、鉄道が廃止となりました。私が道路建設課から企画部の鉄道交通課に移り、常磐新線（つくばエクスプレス）の事業化に奔走していた時のことです。鉄道の廃止に伴い、ほぼ並行して走っていたつくば益子線に代替バスを走らせることになりました。土木部と協議して、バス停整備の協力をしたことをよく覚えております。

私が企画部から都市計画課に移った平成2～3年の頃は、まだ鉄道跡地の処分が決まっておりませんでした。筑波鉄道の担当幹部に聞いたところ「どうしようもないので、隣接地主さんに買っていただくしかない」などと言っておられました。

40・1kmの土地をばらばらにすることなく、何とか活用できないかと、道路建設課と都市計画課で協議しました。道路用地としては狭すぎるし、隣接県道を整備中でしたので、救う道は大規模自転車道しかないということになりました。さっそく道路建設課が国と協議を重ね、晴れて平成3年、補助事業に採択されたのです。

廃線敷40・1kmを一括取得

ちょうどその頃、土木部では土地開発公社を立ち上げ、都市計画課が主管課となっておりました。どうせなら土地開発公社資金を使い、一括して筑波鉄道から用地取得をしてしまおうと考えました。当然、筑波鉄道とは綿密な打ち合わせを重ねながら進めたのです。

こうして、駅舎跡まで含めて廃線敷を全部一括して取得しました。毎年補助金がついた分、土地開発公社から再取得していくのです。少し余裕ができてから、自転車道を少しずつ整備していくことにしたのです。

平成7～8年、私は道路建設課の県道の補佐となり、再取得をしながら、本線はもとより休憩所をつくったりして、着実に整備を進めました。隣接住民の皆様には、桜の木を植えたり環境整備などにご協力いただきました。

一方、平成12年。私が技術総括の時、新たに潮来土浦自転車道（霞ヶ浦自転車道）延長約40kmを採択いただきました。こちらは堤防を利用しての自転車道です。何度も現地に行き、細かい打ち合わせをしたのを覚えております。

後に、この2つの自転車道が合体して桜川土浦潮来自転車道（延長81km）となり、活躍しているようです。

いばらきの公共事業を紐解く

鉄道跡地を有効活用

近頃、車を運転していると、車道左側に設置された矢羽根マークが目立つことに気づきました。また、ロードバイクやクロスバイクの交通量も随分増えているように感じられます。これは、茨城県が推進している「いばらきサイクルツーリズム構想」に基づく、各施策の結果であるようです。

この構想は、『つくば霞ヶ浦りんりんロード』を活用した地域創生の取組をさらに深化させつつ、県内各地域の特色を最大限に活かしたサイクルツーリズムを全県的に取り組み、地域の活性化等につなげていくもの」であるとのことです。

私は、この「いばらきサイクルツーリズム構想」の先駆けとなったのが「つくばりんりんロード」であると考えています。正式名称は県道岩瀬土浦自転車道線（現・県道桜川土浦潮来自転車道線）。岩瀬町（現・桜川市）と土浦市を結ぶ延長40・1km、幅員4／3mの大規模自転車道です。

つくばりんりんロード整備のきっかけについてですが、当時はサイクルツーリズム構想のようなものはなく、筑波鉄道の廃線（昭和62年3月）という深刻な問題への対応のためでした。交通網の消失は、その地域の生活・経済活動に深刻な影響を及ぼすものであり、代替えバス等、様々な施策が講じられたようです。その施策の一つが、鉄道跡地の有効利用と地域活性化を目的とした自転車道の整備だったのです。土木部にこの施策が回ってきたのには、渡邊さんの活躍があったようです。

平成3年4月に国補大規模自転車道整備事業として整備を開始し、80億円余の事業費をかけ、平成14年5月に全線供用を開始しました。まずは駅舎跡地を含めた廃線跡地全てについて、土地公社を活用して一括購入し、毎年再取得しながら順次整備を進めていきました。6箇所の駅舎跡地は、休憩所としてトイレ、駐車場等の整備を行いました。

私が自転車道に関わったのは、道路建設課に所属した6年間（道路公社含む）のうち2年間だけでした。それなのに「道路建設課では主に何やっていたの?」と聞かれると、思わず「自転車道」と答えてしまうほど、この事業が心に残っています。おそらく、自転車道は奥深い趣味の世界であり、事務所の担当者も「ウェーヴ路面」など個性的な整備を進めてくれた、面白い事業だったからだと思います。

開通式では、開催に先立ちダメもとで橋本昌前知事に自転車走行を打診したところOKをいただけたため、急いでクロスバイクとヘルメット、サイクル帽子などを知事公館に届けました。当日、知事には藤沢休憩所から筑波休憩所までの1区間を自転車走行していただきました。各休憩所では沿線市町村にイベントを開催していただいたり、駆けつけた地元住民に抽選で景品を配ったりと、なかなかに盛り上がった開通式だったと記憶しています。知事の乗った自転車も景品になっていました。

つくばりんりんロードは、開通後も様々な問題が残っていました。その最たるものが、一般道との交差点です。150箇所以上の一般道との交差点が、悉く自転車道側の一時停止でした。このままでは自転車が走りづらいということで、土浦土木事務所の方々が尽力し、大部分を解消したと聞いています。

もう一つの大きな問題が、霞ヶ浦自転車道との接続です。接続すれば日本一ながらも、間に常磐線があり、りんりんロード供用当時はまだ構想段階でした。平成28年には、県道桜川土浦潮来自転車道線として路線認定され、一本化されました。さらに、愛称も「つくば霞ヶ浦りんりんロード」に改定されたのです。

つくばりんりんロードは、開通当時の担当者の思惑以上に拡大を続けているように思います。鉄道の廃線対策が、いつの間にか県の施策となっていました。自転車道は、軽快な趣味の道。永久に楽しめれば幸いです。

（島津就子）

茅根　継雄（ちのね　つぐお）
1959年3月1日生まれ。64歳。入庁時期は83年、道路建設課に配属。その後は、港湾課技佐兼技術総括、県南水道事務所長、企業局施設課長、企業局次長などを経て、2019年3月に定年を迎えた。22年6月まで開発公社常務理事を務めた後、現在は日拓測量設計㈱に務めている。

建設業の明るい未来を確信
子供たちに「ものづくり」の魅力を
いばらき建設経済研究社／現場見学会開く

NPO法人いばらき建設経済研究社（坂本雅興代表理事）は8日、土浦市立右籾小学校の5年生48人を招いて工事現場見学会を開催した。建設機械の試乗などを通して建設業の魅力を伝えた。

右籾小5年生48人が参加
高所作業車搭乗など

この見学会は課外授業の一環として行われ、子どもたちに「ものづくり」の魅力を伝え建設業に関わる仕事への興味を持ってもらうことを目的に開催。

会場は、日東エンジニアリング㈱、宮地エンジニアリング㈱、三井住友建設鉄構エンジニアリング㈱が施工する国土交通省常総国道事務所発注の東関道工事現場（潮来市小泉・古高地内）。㈱アクティオ、内宮運輸機工㈱が協賛した。

見学会の第一部は、「R4東関道小泉第二高架橋上部工事」（施工：宮地エンジニアリング）、「R4東関道小泉第一高架橋上部工事」（施工：三井住友建設鉄構エンジニアリング）を見学。宮地エンジニアリングの松岡高廣監理技術者が工事概要を説明した。その後、上部桁などの施工状況やクレーン作業を見学。実際に使用されているものと同じものを使ってボルトの締付体験も行われた。

第二部では、「R4東関道古高高架橋下部工事」（施工：日東エンジニアリング）の現場に移動。新保博之現場代理人が工事概要を説明した。児童たちは高所作業車搭乗やタイヤローラに試乗。リモコンによる除草機操作も体験した。また、三光建設㈱（鹿嶋市）の阪口美香取締役も見学に訪れた。

児童たちは「高い所から見た高架橋は迫力があった」「機械の操作が面白かった」と目を輝かせ楽しんでいた。

坂本代表理事は「建設業の魅力をはじめ、日々の安全への取り組みを目の当たりにしていただける機会は、建設業の明るい未来へ繋がるものと信じている」とコメント。

いばらき建設経済研究社は、未来を担う子どもたちに向けて現場見学会や資格取得支援など様々な事業を展開しており、今後も様々な活動を通して建設業の発展に努めていくとしている。

長寿命化計画見直し
港公園　オオバに業務委託
県潮来土木

県潮来土木事務所は本年度、港公園（神栖市東深芝10）で長寿命化計画の策定を進めている。2017年に策定した計画の見直しを行うもので、業務は㈱オオバに委託して進めている。

港公園の敷地面積は7・5ha。ネーミングライツ事業により2023年度から通称を「平成物産パーク港公園」としている。

同施設には高さ52mの展望塔や管理棟、東屋、トイレ、ベンチなどが設けられている。展望塔は老朽化により構造物が落下する可能性が生じたため2020年12月から利用を休止している。

今回の業務は公園全域で予備調査、健全度調査と健全度・緊急度判定を実施。長寿命化計画の検討と策定を行うもの。履行期間は150日間。

同業務の事業者選定に当たっては10月18日に指名競争入札を執行。落札額は650万円（税抜き）。

公園照明を更新
年度内の完了へ
《境町》

境町は、さくらの森パーク（長井戸地内）の照明灯更新工事を実施する。補正予算第10号では、工事費として400万円を計上。今後すぐにも発注し、年度内の完了を目指していく。

さくらの森パークは、さしまアクアステーションの北西側に位置する。

工事の対象となるのは、照明灯3基分。老朽化が進行しているため、長寿命化対策として優先度が高いものを更新する。

新風㈱
水戸特支へベッド寄贈
水戸信金私募債　校外学習に活用
社会貢献活動

しんきんSDGs私募債『ちいきのミライ』
発行記念寄贈式

▲河西代表取締役から林校長へ目録が手渡された

新風㈱（水戸市、河西大代表取締役＝写真中央）は、水戸信用金庫を通して県立水戸特別支援学校（林孝一校長＝写真左から2人目）へ、折りたたみリクライニングベッドの寄贈を行った。6日には水戸特別支援学校で発行記念寄贈式が行われ、河西代表取締役から林校長へ目録が手渡された。

発行記念寄贈式で河西代表取締役は「これからも事業に励み、さらに地域へ貢献できるように頑張っていきたい」とコメント。

林校長は「今回寄贈いただいたベッドは校外学習を行う際の介助にとても役立つため、とても感謝している。大切に使わせていただきたい」と謝意を示した。

今回の寄附は、新風㈱が発行したしんきんSDGs私募債「ちいきのミライ」から行った。「ちいきのミライ」は信用金庫が引き受け先となっている私募債で、手数料の一部が車いすや遊具などの寄贈や寄付など、地域貢献に充てられる仕組みとなっている。

遊具更新工事など
2件が入札不調
《つくば市》

つくば市は13日に工事に係る一般競争入札を21件執行。このうち豊里ゆかりの森アスレチック遊具更新工事、かみかわ浅間市民緑地整備工事が不調となった。

豊里ゆかりの森アスレチック遊具更新工事は、老朽化した遊具を更新することで安全性を確保するとともにゆかりの森の魅力向上を図る。アスレチック新設（1基）と更新工事（1基）を行う。予定価格は485万円（税抜き）としていた。

かみかわ浅間市民緑地整備工事は、同施設を適切に管理するため、公園施設を整備する。工事概要はフェンス設置工122m、車止め（可動式）設置工3基、ベンチ設置工2基、入口舗装工8㎡、砕石舗装工110㎡。予定価格は408万円（税抜き）だった。